

2019年8月号
Vol. 37

発行／公益財団法人千葉県文化振興財団 文化振興グループ
〒260-8661 千葉市中央区市場町11番2号
TEL 043-222-0077 FAX 043-221-6438
E-Mail kikaku@cbs.or.jp

HPからも
アクセス
できます!!
Facebook
(公財)千葉県文化振興財団 公式ページ
http://www.cbs.or.jp/

文化人に聞く ～和泉流狂言師 小笠原 匡～

千葉県文化振興財団では、千葉大学・NPO 法人フォーエヴァーの皆さんとともに千葉県に古くから伝わる民話、習慣や風習などを題材にした「創作狂言」公演を開催しています。今回、その中で物語の脚本、演出を担っていただいている、和泉流狂言師の小笠原匡(おがさわら ただし)さんにお話を伺いました。

～伝統芸能、そして狂言のこれから～

伝統芸能や狂言の現状と、ご自身の想いをお聞かせください。

狂言をはじめ伝統芸能の現状というのは、各ジャンル非常に難しい課題ですが大変危機的状況だと感じております。現状を客観的に認識して、伝統芸能の継承者各々が様々な媒体を使ってもっと積極的に被写体となり、普及発展に努めていく必要があると考えております。

狂言をはじめとする伝統芸能、日本文化をどのように伝えていきたいか、お聞かせ下さい。

私は自主公演である「延年之會」を東京・京都・大阪、そして本年よりパリにおいて開催し、公演を通じて狂言の魅力を常に発信しております。また、今年度は「文化庁・文化芸術による子供育成総合事業」にも携わせていただき、千葉県内の小学校で狂言を披露しております。

より多くの方々に知っていただけるよう、ブログやFacebookからも発信しております。このように様々な手法で発信することで幅広い世代への普及につながり、狂言をきっかけに伝統芸能全体へ波及することを期待しております。

～「創作狂言」に携わって～

財団、大学(学生)、NPO との関わりとの中で感じたこと、苦労話などお聞かせ下さい。

千葉県文化振興財団と千葉大学、地域NPO 法人が三位一体となり地域創造事業を行っているという、このような取り組みは他地域では見られないもので、常々、大変意義のある事業だと感じております。ただ、素晴らしい取り組みではありますが、県内外への発信力が今ひとつ足りないのか、輪が中々広がっていきません。もっともっと大勢の方々に認識して頂きたく存じます。

創作狂言ファン、参加している若者達に向けて、そして今後の展望をお聞かせ下さい。

毎回公演を楽しみにして下さるリピーターのお客が増えていることに感動しております。また、参加している若者達には出来る力を一杯発揮して欲しいと願っております。規模が拡大して、毎年千葉県内で数カ所公演やワークショップ、シンポジウムなどが行われる様に発展したいです。

～最後に～

私は日本文化の普及発展に対して、今出来る力を振り絞り国内外で目一杯取り組んでおります。今後は同様の志を持った仲間を増やしていく事が大切な課題だと感じております。

真剣に、そして楽しむことも忘れず、学生や県民の方々と同じ目線で精力的に取り組んでいる小笠原先生。貴重なお話ありがとうございました。

◆小笠原匡さん公式HP <https://www.atelier-oga.com/index.htm>



見る、知る、伝えるちば **創作狂言 里見八犬伝 其ノ参** エピソードスリー

「南総里見八犬伝」を題材にした、シリーズ第4弾を開催します。

令和元年12月7日(土) 14時開演 千葉県文化会館小ホール
第一部：狂言「仏師」 第二部：創作狂言「里見八犬伝 其ノ参」
全席自由：2,000円 学生1,000円(消費税込)



千葉県文化会館にほど近い、亥鼻保育所の子どもたちが作った七夕飾りをロビーに展示しました。

0歳児の子どもたちも青色の絵の具を使った手形スタンプでアジサイの花を作り、かわいらしく季節感を表現しました。



七夕飾りには、ホールの催し物で会場を訪れていた色々な地域の子供たちが願いを込めた短冊を飾り、ひとつの作品となりました。

来館された多くのお客様は、記念写真を撮って帰られるなど楽しいひと時を過ごしていました。

これからも、皆様が気軽に立ち寄れる場所として楽しんでいただけるものを企画し、おもてなしの心で皆様をお迎えしたいと思います。



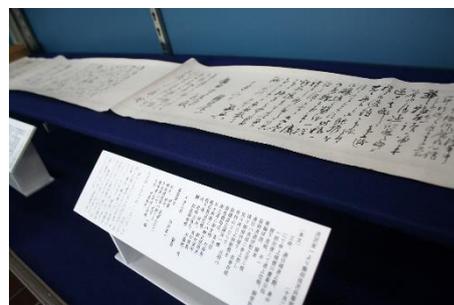
ふるさとミュージアム「渋沢栄一と旭展」

千葉県東総文化会館

東総文化会館の文化芸術アドバイザーである版画家、土屋金司氏から「東総地域の発展に寄与した偉人、渋沢栄一を紹介する展示はどうだろうか？」という提案をいただいたことからスタートし、4月18日から6月30日の期間で開催しました。

海匝地域と渋沢栄一は、明治35年(1902)ハワイへの船上で出会った飯田佐次兵衛との交流から始まります。飯田佐次兵衛商店(現千葉醤油(株))5代目 飯田佐次兵衛が、日本人として初めて醤油の海外生産をハワイにて試みており、渋沢栄一と船上で意気投合したと伝えられています。この縁あって、渋沢栄一は大正7年(1918)旭町尋常高等小学校(現中学校に相当)で講演を行っており、その際に手植えされた楠は、会館が建つ旭市文化の杜公園に生育し100年を迎えています。また、今回の展示に合わせ、当代飯田社長からは大変貴重で初公開となる直筆の書簡等をお借りすることができました。

壱万円札の肖像画に決まったことで、NHKをはじめ各メディアから取材を受けるほど注目を集め、普段会館に足を運ぶことがない方や他県から訪れる方も多く、1万人を超える方々にご覧いただき大盛況となりました。ご来場くださいました皆様、また、ご協力いただきました公益財団法人 渋沢栄一記念財団及び渋沢栄一記念財団 竜門社海匝支部にはこの場をお借りしまして御礼申し上げます。



渋沢栄一から飯田佐次兵衛へ宛てた直筆書

アキラさんの大発見コンサートに向けて ～身近な物でも楽器に～

千葉県少年少女オーケストラ



毎年8月に開催される「アキラさんの大発見コンサート」でご出演いただく宮川彬良さんの作曲・編曲した作品は、クラシックからポピュラーまで多岐にわたり、その数は300曲以上になります。

今回は、その中から「仔象の行進」という曲の中で使う変わった楽器を紹介します。なんとそれはコーラの瓶です！ 瓶の中に入れる水の量と息の吹込み方で音程調整を行い、高低それぞれのパートに分かれて演奏します。

初めて演奏する団員からは「唇の角度が少し違うだけでも、水の量が少し減っただけでも毎回音が変化するので難しいです！」という意見が聞かれましたが、練習回数を重ねるうちに音の精度も上がってきて、今では他の楽器に負けない存在感を出しています。皆さんもご家庭で挑戦してみたいはいかがでしょうか。

いつも楽しく音楽に取り組む宮川彬良さんのアイデアによって、また一段と音楽を身近に感じることができるコンサートになりそうです。

編集後記

「令和」がスタートし、すっかり馴染んできました。そして来年の今頃は東京2020真っ只中！日本に注目が集まるこの機会に日本の文化を発信していきたいですね。